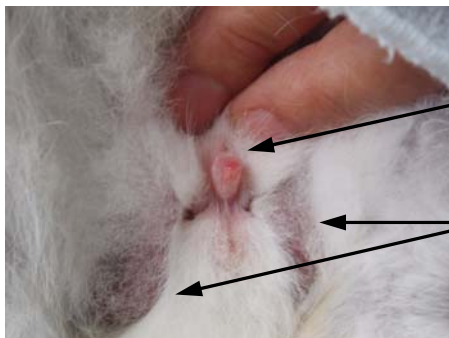




うさぎの飼い方

* うさぎのからだ

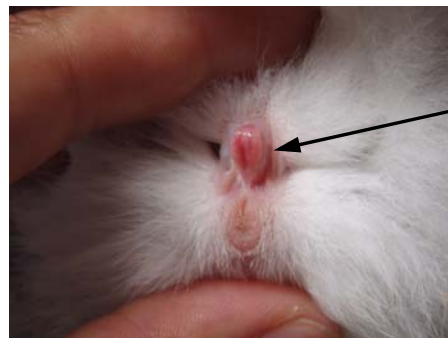
- ・ 目：顔の側面にあるので、360度見ることができます。いろいろな目の色があります。
- ・ 耳：大きくて、小さな音でもよく聞こえます。体温調節にも役立ちます。
- ・ 歯：全部で28本あります。前歯（切歯）は上に4本（二重になっている）、下に2本あります。どの歯もすべて伸び続けます。
- ・ 毛：毛の生えかわりは3ヶ月ごとで、特に春と秋には抜け毛が多くなります。
- ・ 四肢：穴掘りに適した短い前足と、キック力のある強い後ろ足。指は前が5本、後ろ4本です。足の裏は毛で被われています。
- ・ 肛門とフン：フンは黒く、丸くてコロコロしています。他に、柔らかいフン（盲腸糞。ブドウの房状をしている）を排泄し、これを食べることで栄養を吸収します。（食糞）
- ・ 泌尿器と尿：尿はにごった白～うす黄色をしています。エサの色によって、オレンジ色をしていることもあります。
- ・ 生殖器：オスは生後3ヶ月半で睾丸が下がるので、見分けが付きやすくなります。オスの生殖器は筒状で、メスは縦に割れた形状をしています。



丸く開口

睾丸

オス

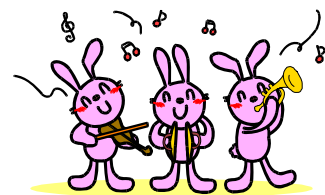


縦長に開口

メス

写真は若いうさぎです。成熟したもののの方が見分けやすいです。

うさぎの精巣はびっくりすると腹腔内へ引っ込んでしまうことがあります。



ポイント：生きているもののあたたかさ、かわいらしさを感じるために、ぜひ抱いてみてください。うさぎを抱く時は、片手で首筋をしっかりとつかみ、反対の手で尻と後ろ足を抱え込むようにして、うさぎの体を丸くさせながら抱きます。自分のからだにつけてしっかりと抱きましょう。うさぎの骨は軽くて折れやすいので、くれぐれも落とさないように。




* うさぎの食べ物

干し草（牧草）・ペレットを中心に新鮮な野菜・野草・果物などを 1日2回、バランスよく与えましょう。

- ・ 干し草（牧草）：お腹の働きを助け、健康に過ごすために必要な食べ物です。歯の伸びすぎを防ぐことも出来ます。
- ・ うさぎ用ペレット：主な原材料がイネ科やマメ科の植物のものを選びます。
1日朝夕2回、体重の5%程度を与えます。
- ・ 野菜・果物：水分の少ない緑黄色野菜を中心に与えましょう。コマツナ・キャベツ・ニンジン・サツマイモ(少量)、ダイコンの葉など。
- ・ 野草：タンポポ、クローバー、アワユキセンダングサ（サシグサ）、オニタビラコ、クズ などの野草、イタリアンパセリ、スイートバジルなどのハーブも与えることができます。

うさぎに与えてはいけない食べ物：ジャガイモの皮や芽、ネギ類、チョコレート、生の大豆、人間の食べ物・飲み物、穀類が原材料のもの（クッキーやパンなど）
これらは、中毒をおこしたり、消化管に負担をかけ、うさぎの命を奪うこともあります。

ポイント：うさぎに適した食事を与えることで、病気の予防にもなります。また、うさぎは草食動物ですので、長時間食べ物がない 又は食べられない状態には耐えられません。

* うさぎのおうち 

飼育舎を利用する場合

- 床：土のままだと穴を掘って逃げてしまうことがあるので、掃除のしやすいコンクリートがお勧めです。

木箱などの隠れ家を用意してあげるとよいでしょう。

- 柵：ジャンプ力があるので、1m 以上必要です。
- 飼育数：4 畳の広さに3匹くらいが平和で世話もしやすくおすすすめです。

うさぎの数を増やさないようにするなら、オスとメスを分けて飼いましょう。飼育数が多いと、世話も大変でけんかが絶えません。



座安小 手作りの二階建て巣箱



上田小 コンクリートの床で掃き掃除もラクラク

* うさぎが増えすぎてしまったら・・・

学内外で新しい飼い主さんを募ってはいかがでしょうか？

教室内で、ケージ飼育を試みられるのもお勧めです。

ケージで飼育する場合

- ケージの大きさ：ウサギが寝そべっても十分なゆとりがあるサイズのものを選びましょう。

底面 60cm×40cm 高さ 50cm くらい

ひとつのケージに1匹です。

ケージ内だけの生活ではストレスもかかります、ときどき広い所で運動させてあげてください。

- 床：金網が硬すぎたり、汚れやすいと足の裏に負担をかけます。
金網の上にはプラスチックのマットなどをひくとよいでしょう。
汚れがたまらないよう 毎日の掃除もきちんとしましょう。

- ・ トイレ：ケージ内にトイレを入れてやると、排尿はトイレですてくれます。掃除がラクになります。



写真のケージにはトイレ、水入れ、干し草入れ、食器も写っています。

底面は引き出し式になっていて、新聞紙を敷いています。

うさぎの存在が近くなりますので、子供とうさぎ お互いが親密になり、情のかよう関係が作れると思います。

うさぎの健康管理、繁殖のコントロールも易しくなります。

ポイント：うさぎは、温度や湿度が高いところで飼育すると、皮膚病や呼吸器の病気にかかりやすいので、注意しましょう。また、狭い所にたくさんのうさぎを飼うと、ケンカをしてケガをしたり病気になりやすくなります。

1匹でも寂しくて死んでしまうことはありません。

* うさぎの繁殖

- ・ 妊娠期間は 30～32 日間。1 回に 6～8 匹のあかちゃんを産みます。
- ・ 授乳は 1 日 1～2 回、5 分くらいです。人が子うさぎを素手で触ったりすると、母うさぎが育児放棄してしまうこともあるので、注意しましょう。
- ・ 生まれてから 10 日で目が開きます。4 週目頃から外に出てきて野菜などを食べ始めます。8 週目以降であれば触っても大丈夫です。
- ・ 生後 3 ヶ月ごろに新しい飼い主を見つけるか、生後 4 ヶ月までにはオスとメスを分けてください。
- ・

ポイント：おとなのオスとメスを一緒にしておくと、どんどん赤ちゃんが生まれて増えていきます。

1 匹のうさぎで 1 年に 8 回まで赤ちゃんを産むことができます。

増やしたくない場合は、必ずオスとメスを分けて飼うか、不妊手術を受けさせましょう。

* うさぎの病気



- ・ パスツレラ感染症（スナッフ）→くしゃみ・鼻水が出る細菌感染による呼吸器の病気です。
急激な温度変化や汚れた環境、ストレスなどにより発症しやすくなります。
- ・ 歯の不正咬合→上下の歯のかみ合わせの異常で、歯がどんどん伸びて食べられなくなります。
繊維質の多く含まれている餌やかじり木を与えることで予防します。
- ・ 毛球症→抜け毛を飲み込んでも通常はフンと一緒に排泄されますが、消化管の動きが悪いと
胃内に毛が溜まってしまい、毛球症を起こしてしまいます。食欲や元気がなくなる、
飲水量が増えるなどの症状がでます。
繊維分の多い干し草等を日ごろから食べさせて消化管を健康に保ちましょう。
- ・ 皮膚糸状菌症→白癬菌が原因で、丸く脱毛します。ストレスや不適切な環境・エサが原因で発症
します。人獣共通感染症なので、人への感染にも注意が必要です。
- ・ 熱中症→暑さにより、ぐったりして呼吸が荒くなります。ウサギは暑さに弱い動物です。風通しのよ
い場所で飼いましょう。
- ・ 外部寄生虫→ノミがつくことがあります。薬を使って駆除することができます。他には、耳につく
ダニで外耳炎や皮膚炎を起こすことがあります。

ポイント：食欲、フンの大きさや、目、口、おしりなど穴の周りが汚れていないか見てあげてください。
食欲がないことは、ウサギにとって緊急事態です。日ごろから健康状態を観察し、異常が見られ
たらなるべく早く獣医師に相談してください。